

いの流水俳壇

松尾 満津於選

「当季雑詠」

廃校の鉄棒を借り大根干す

岡本とも子

(評)懸大根は田舎では昔から、欠かせぬ初冬のならわし、大根の白い素肌を日向にずらりと並べた風景は、いかにも田園情緒、しかもこの句の生まれた場所が、自宅の庭先や軒先、道端でなく廃校跡に残った鉄棒を寸借した風景であったことである。止めた眼も干大根の情景も、まことにユニークで今日的な風景と云えよう。

リハビリの廊下に寒き試歩の数

友草 水月

(評)この作品の場合、初めての自分自身による事故。單なる想像ではない、意識してさりげなく、そして明るく退院を迎えたものでもない。全くの不覚事故に心

中の淋しさ、苦しさ、悲しさはいうまでもなく、一步一步の試歩の数が、まことに切実。句仲間生涯の友人としてこの新しい年のはじめから目を見張るような回復を願って止まない。

犬死なせほんとの一人この寒さ

津田 久美

(評)仲間や家族、頼るところのないひとりぼっち、心頼りの愛犬までも死んでしまつて、ひとり取り残された孤独感。何事か口ずさんでみるのも、ひとつの手法、心も軀も唯一人、寒さが身にしみる、なまなましい感性の重みを感じる句である。

白梅の一枝厨を浄めけり

竹崎 光子

(評)白い梅の花が鮮やかに春の訪れを演出している。作者の感慨を白い梅花に込め庭にうぐいすの初音を聞いているのではなからうか。梅の花の小枝を切つて厨に挿す、百花に先駆けて咲く梅の花、その一枝から春がだんだん長^たけてゆく。

投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

867-2133

次 題 「当季雑詠」五句
締め切り 毎月十五日

踏み窪む大地はすでに春纏う	劉谷 志津
学ひ舎の歴史閑する日寒椿	大川 節弥
受験子へ父の手渡す電波時計	井上 郁子
少し嘘ませた話へ凍て返る	竹崎たかひろ
夜の自販機ごとりと寒い音が出る	間 浩太
鯉の粗買いて煮メの旨さ言う	片岡 包女
厳冬に老体鞭打ち畑仕事	森岡 照月
神前にお粥供えし小正月	筒井 正子
雲晴れや庭のかまくら溶け初むる	川村 博子
名山は黙し名もなき山笑ふ	伊藤 萩甫
日溜りを土よせさがす福寿草	弘瀬うき子
海苔掻きて岩場離れぬ山の人	岡村 嘉夫
豆まくや孫ふり返る妻の声	野本 則昌
冬銀河始発は宇宙の涯の駅	門田 京子
母を恋ふ遠き思い出麦を踏む	小野川町子
ものの芽の出でしことただ喜べり	田蔦恵美子
恐き妻ありて吾あり福寿草	松尾満津於

会社でのギモン、教えてください!!!

Q. 妊娠したことを会社に伝えたら「仕事辞めたら?」と言われました。辞めなきゃいけないのでしょうか?



A. 辞める必要はありません。妊娠を理由とする解雇は男女雇用機会均等法第9条で禁止されています。

★雇用均等室への相談は無料です。

★匿名での相談も可能です。



問い合わせ 高知労働局雇用均等室 ☎ 885-6041

高知のみなさま、
地デジの準備はお済みですか?
地上アナログ放送は、
2011年7月24日までに終了!

の は、ポ
デ ジ サ
地 こ ジ
高 知 へ。



デジサポ 高知

tel.088-813-0000

[平日9:00~21:00/土、日、祝日9:00~18:00]